

創立110年記念!

数万点におよぶ学校内所蔵文書を駆使して
北海道家庭学校の歴史をたどる本格的な研究書。

北海道家庭学校 110年

北の大地の暮らしと教育

編 | 北海道家庭学校

監修 | 家村昭矩・仁原正幹 編集委員長 | 二井仁美

他では類を見ない、児童自立支援施設退所者の予後調査をふまえた分析も掲載。

支援を必要とする子どもたちに「家庭の愛と学校の知」を提供してきた、1世紀を超える歴史を俯瞰するだけでなく、現在そして未来の子どもたちの問題を考察するための必須の書!



本書を推薦します

服部 朗 (愛知学院大学教授)

本書を一気に読みました(正確には、本書に読まされました)。ここには、百余年にわたる北海道家庭学校の職員と支援者の営みが、一つひとつの歴史資料の見事な配置と洗練された歴史分析により、鮮やかに描き出されています。校祖留岡幸助の掲げた理想、留岡清男(第4代校長)による継承と改革、谷昌恒(第5代校長)による教育実践、創設百年以降の「新世紀・北海道家庭学校」等々——そこには、大きな「自然の力」と、幾多の困難を拓いてきた「人の力」と、主人公である「子どもたちの育ち」と、新たなチャレンジを続ける家庭学校の姿があります。そして、百余年の歴史を辿ることによって、現在、児童福祉施設が直面している諸課題解決のための多くの示唆が与えられています。児童福祉関係者はもちろん、学校教育、少年司法、矯正など、子どもの育ちにかかわる人々に広く読んでほしい本です。そして、本書を手を、いつか社名淵を訪ねてみてはいかがでしょうか。

(はっとり あきら)

2024年1月発売!

A5判・上製・424ページ
定価3,000円+税(税込3,300円)
ISBN978-4-86617-229-3

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

定価●三,三〇〇円(税込)
ISBN978-4-86617-229-3

北の大地の暮らしと教育
北海道家庭学校110年

発行 六花出版 編 北海道家庭学校

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(32963)8787

電子メール info@nikka-press.jp

第I部 北海道家庭学校の歴史と現在の姿

第1章 留岡幸助による感化事業への着目 (二井仁美)

- 第1節 キリスト教との出会い
- 第2節 監獄という「大学」
- 第3節 感化事業への注目

第2章 家庭学校北海道農場と社名淵分校 (二井仁美)

- 第1節 家庭学校の創設
- 第2節 家庭学校北海道農場の創設
- 第3節 社名淵分校の教育
- 第4節 家庭学校における二つの農場経営

第3章 家庭学校社名淵分校における教育の展開 (二井仁美)

- 第1節 留岡清男の家庭学校社名淵分校教頭就任
- 第2節 家庭学校の校長交替と財政整理
- 第3節 少年教護法施行期における社名淵分校の暮らしと教育
- 第4節 社名淵分校と東京本校
- 第5節 家庭学校社名淵分校における生徒の入校と退校

第4章 「北海道家庭学校」の誕生 (大泉溥)

- 第1節 敗戦直後の社名淵分校
- 第2節 再建への道程：北海道家庭学校創立五十周年記念事業まで
- 第3節 放胆な教育実験・実践の展開
- 第4節 法人としての分離独立と新運営体制

第4章補論 児童福祉行政草創期の北海道と家庭学校 (家村昭矩)

- 第1節 敗戦直後のGHQの動向
- 第2節 児童福祉行政のはじまり

第5章 「教育農場」から「森の学校」へ (二井仁美・家村昭矩)

- 第1節 社会福祉法人北海道家庭学校の発足と谷昌恒校長の就任
- 第2節 「復興」から「成熟」の時代へ
- 第3節 1970年代以降の教護院を取り囲む状況と「森の学校」

第6章 北海道家庭学校の現在 (仁原正幹)

- 第1節 児童自立支援施設としての新たな歩み
- 第2節 北海道家庭学校創立百周年
- 第3節 新世紀・北海道家庭学校の幕開け
- 第4節 新世紀・北海道家庭学校の現況

第6章補論 遠軽町立遠軽中学校・東小学校「望の岡分校」の開設

(河原英男・森田穰)

- 第1節 望の岡分校の開設経緯
- 第2節 望の岡分校の教育
- 第3節 望の岡分校の特色ある学習
- 第4節 望の岡分校の状況

第II部 児童票調査と予後調査からみる
家庭学校卒業生の自立

調査研究1 児童票調査 (富田拓)

- 第1節 調査方法
- 第2節 家庭学校入所児童の特性とその変遷

調査研究2 予後調査 (富田拓)

- 第1節 家庭学校における予後調査の歴史
- 第2節 『ひとむれ』による予後調査
- 第3節 「ひとむれ調査」の捕捉率
- 第4節 卒業児童の予後
- 第5節 何が予後に影響を与えるのか
- 第6節 考察

調査研究補論 北海道家庭学校退所者へのアフターケア (椿百合子)

- 第1節 退所後の成り行きに関する情報蒐集
- 第2節 アフターケアの実際
- 第3節 心のふるさととしての北海道家庭学校
- 第4節 再非行防止の取り組みと共通すること

北海道家庭学校略年表

北海道家庭学校

東京の家庭学校 (1899年創設) の北海道農場および社名淵分校として1914年に開設。「感化教育」と「新農村建設」により自立自足の生活圏確立をめざした。開設者はキリスト教社会事業家の留岡幸助。戦後、社会福祉法人となり、現在も児童自立支援施設 (男子のみ) として「小舎夫婦制」「自然の感化力」「よく働き、よく食べ、よく眠り、よく考える」などの理念のもと、子どもたちの暮らしと教育を支え、自立を支援している。
439ヘクタール (130万坪) の土地に、本館・寮舎・給食棟・礼拝堂・博物館・図書館・診療所・牛舎・バター・チーズ工房等があり、市街地には自立援助ホームがある。